

分娩期の助産診断・技術学 I

入院時（受け持ち時）の 助産診断



2026/5/18
高橋

分娩進行状態の診断【復習】




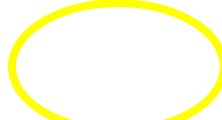

分娩の4要素から判断して

- ・ 現在の分娩進行状態は順調か
- ・ 分娩を妨げる要因・促進する因子は何か
- ・ 分娩進行状態、産婦・胎児の健康状態より、正常からの逸脱の可能性やリスクはないか

分娩4要素で情報を解釈しよう

グループワーク【用紙(事例、情報の整理)を用いて進める】

1. 情報の整理

- ① 娩出力をアセスメントする項目および娩出力に影響を与える関連因子には 
- ② 産道をアセスメントする項目および産道に影響を与える関連因子には 
- ③ 胎児および胎児付属物をアセスメントする項目には 
- ④ 母体精神をアセスメントする項目には 
- ⑤ 母体の健康状態をアセスメントする項目には 

本日の目標

1. 情報の整理ができる
2. 分娩開始の診断ができる
3. 分娩時期の診断ができる
4. 分娩の進行状態の診断の考え方がわかる
5. 分娩予測の考え方がわかる

分娩予測とは

助産診断に基づき産婦に適切な援助を行った場合、どのような分娩経過をたどるかを入院時の診断結果や分娩進行状態の総合判断をもとに予測すること

- 1) 経膈分娩の可否の判断
- 2) 分娩第2期の開始時間・見娩出時間の予測
- 3) 分娩経過の予測

経膈分娩の可否の判断

妊娠全期間を通して行われる

- ・ 既往・手術歴
- ・ 胎盤の付着部位
- ・ 産道
- ・ 胎児の大きさ、胎位、胎勢
- ・ 母体・胎児の健康状態

経膈分娩の可否の判断

城さんは、既往歴や手術歴はなく、妊娠経過においても胎盤位置に特記はなく、帝王切開の適応ではない。また、低身長ではなく、児の推定体重および見頭大横径も週数相当であることから、骨盤通過は可能と考える。現在、母体・胎児の健康状態は良好であることから、経膈分娩は可能と考える。

見娩出時間の予測

- ・分娩開始から現在までの状況
- ・フリードマン曲線（日本における自然分娩曲線）
- ・正常な周産期アウトカムをもつ産婦における子宮口開大パターン
- ・分娩所要時間の計算式
- ・見娩出を促進する因子・遅延する因子

⇒総合的に判断し、分娩第2期開始時間および見娩出時間を予測する。

分娩第2期開始時間と児娩出時間の予測

- ・ 分娩開始から4時間経過。
- ・ 陣痛周期7分、発作50～60秒で、潜伏期として良好
- ・ 子宮口開大は3cmと最終妊婦健康診査から開大している。
- ・ 『日本人の自然分娩曲線』に照らし合わせると12時間後の21時00分に分娩第2期となり、児娩出時間は**おおよそ22時00分～23時00分ごろ**となる。

分娩第2期開始時間と見娩出時間の予測

- ・見娩出を促進する因子は、潜伏期として有効な陣痛
- ・見娩出を遅延する因子は、現在顕在化していないが夜中3時から前駆陣痛があり、十分な睡眠が確保されていないことや、朝食を摂取していないことが今後のリスク因子となる。

⇒現時点では、潜伏期として有効な陣痛であることから、標準的な経過(分娩第2期開始21時ごろ、見娩出時間22時～23時ごろ)で分娩に至ると予測する。

分娩経過の予測

- ・ 分娩各期がどのように経過しそうか。
- ・ 分娩経過中におこる可能性がある異常はなにか



- ・ 予測を行うことで異常の発生を未然に防ぐ
- ・ 異常が発生した場合でも、事前にその対策や処置の準備を行うことによって迅速に対応でき、正常からの逸脱の程度を軽微な状態で食い止める

分娩予測

今後は、陣痛周期が短縮し陣痛発作が増強すると考える。産痛部位は、腰部から下腹部と腰部・尾骨部へと広がり、強くなり、経時的に子宮頸管は熟化が進み、血性分泌物が増加していくと考え、15時ごろには活動期に移行すると予測する。

さらに、未破水であることから、発作に伴い自然破水が生じる可能性もある。

分娩予測【リスク因子】

- ・ 城さんは、朝食を摂取していない。今後、陣痛が増強することで食事・水分摂取が阻害される可能性がある
- ・ 前駆陣痛により、3時からウトウトした睡眠だった。疲労が蓄積する可能性がある。
- ・ 城さんは痛みに弱いと自覚している。今後、陣痛による疼痛で不安や恐怖心が増強する可能性がある。
- ・ Hb10.2mg/dlの軽度貧血であるため、微弱陣痛および弛緩出血のリスクがある。
- ・ 母体GBS陽性であるため、産道感染により新生児に肺炎や敗血症、髄膜炎が生じる可能性がある。

⇒このような阻害因子を助長せず、また、児への感染のリスクを予防し、順調な分娩経過になるようなケアプランを立案する

様式3:分娩期記録(受け持ち時予測)

1. 分娩開始の診断

2. 分娩時期の診断

3. 分娩四要素

娩出力、産道、胎児の回旋、胎児の状態、
胎児付属物の状態、母体精神および
母体の状態をアセスメントする

4. 分娩予測

5. 援助の方向性

提出日

5/20(水)8:40

②様式3